

倫理学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
倫理学特論Ⅰ	カントの倫理思想	2	池田 準	後期 金曜日 4講時	
倫理学特論Ⅱ	ほんとうのことはー発展編 存在を宿す言葉ー	2	戸島 貴代志	後期 火曜日 2講時	
倫理学特論Ⅲ	応用認識論	2	飯塚 理恵	前期集中 その他 連講	
倫理学総合演習Ⅰ	発表と討論	2	戸島 貴代志.村山 達也	前期 月曜日 5講時	
倫理学総合演習Ⅱ	発表と討論	2	戸島 貴代志.村山 達也	後期 月曜日 5講時	
倫理学研究演習Ⅰ	現象学と存在論	2	戸島 貴代志	前期 水曜日 4講時	
倫理学研究演習Ⅱ	現象学と存在論	2	戸島 貴代志	後期 水曜日 4講時	
倫理学研究演習Ⅲ	幸福とは何か(倫理学原典講読・フランス語)	2	村山 達也	前期 水曜日 2講時	
倫理学研究演習Ⅴ	倫理学の議論:再構成と質問とのやり方を学ぶ	2	村山 達也	前期 金曜日 2講時	
倫理学研究演習Ⅳ	知覚と想像力(倫理学原典講読・フランス語)	2	澤田 哲生	後期 水曜日 2講時	

科目名：倫理学特論 I / Ethics (Advanced Lecture I)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：池田 準

コード：LM25401, 科目ナンバリング：LIH-PHI603J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カントの倫理思想
2. Course Title (授業題目)：Kant's ethical thought
3. 授業の目的と概要：本講義では『人倫の形而上学の基礎づけ』『実践理性批判』『人倫の形而上学』などで展開されたカントの倫理思想を概観し、カントが取り組んだ倫理的課題（道德の普遍性、動機づけ、尊厳、自律）を検討します。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course serves as an introduction to Kant's ethical thought. We will explore some of the moral problems in his ethical works, including universality of morality, moral motivation, dignity, and autonomy.
5. 学習の到達目標：(1) カントの倫理思想の基本概念が理解できるようになる。
(2) カントが提起した道德性の問題を自分自身の問いとして引き受け、探究する力を身につける。
(3) 倫理問題に関する合理的な議論ができるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. To understand the basic concepts of Kant's ethical thought.
2. To grasp and investigate the problem of morality for yourself
3. To discuss the moral problems rationally
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. カント倫理思想の概略とその位置づけ
 2. 普遍性(1) なぜ倫理規範の普遍性が問題になるのか
 3. 普遍性(2) 法則と格率
 4. 普遍性(3) 定言命法の「普遍性の定式」
 5. 普遍性(4) 帰結主義・個別主義からのカント批判
 6. 道德的動機づけ(1) なぜ「私」は倫理規範に従わねばならないのか
 7. 道德的動機づけ(2) 道德感情論と道德法則に対する尊敬
 8. 道德的動機づけ(3) 実践的アイデンティティをめぐる現代の議論
 9. 尊厳(1) なぜ人間には尊厳があるのか
 10. 尊厳(2) 定言命法の「目的の定式」
 11. 尊厳(3) カント的尊厳概念に対する批判
 12. 自律(1) 自由と道德性は両立しうるのか
 13. 自律(2) 定言命法の「自律の定式」
 14. 自律(3) 目的の国とカントの歴史哲学
 15. 全体のまとめ

各回の授業で参照するカントのテキストからの抜粋（日本語訳）は授業資料として PDF で用意します。

8. 成績評価方法：

期末レポート(60%)、授業内課題(40%)

期末レポートでは授業全体を通じての知識の獲得と理解の深化を評価します。毎回の授業では質問や意見を書いてもらい、問題意識を持って授業に取り組むことができているかを評価します。
9. 教科書および参考書：

カントのテキストも含めて授業資料は Google classroom を通じて PDF で配布します。
10. 授業時間外学習：各回の授業で参照する文献の箇所は事前に指示しますので、あらかじめ熟読の上、授業に参加して下さい。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：

科目名：倫理学特論Ⅱ／ Ethics (Advanced Lecture II)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：戸島 貴代志

コード：LM22206, 科目ナンバリング：LIH-PHI604J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ほんとうのことば—発展編 存在を宿す言葉—
2. Course Title (授業題目)：Breathing True - advanced -
3. 授業の目的と概要： 倫理思想概論での中心内容をより深く展開する。ものは、〈外側から〉眺められ、〈内側から〉生きられる。前者すなわち〈表象する思考〉は対象から距離をとる客観的思考を目指し、後者すなわち〈遂行する思考〉は対象そのものと一つになる主体的思考を目指す。講義は、この「外側から捉えることと内側から捉えること」という倫理思想概論の内容を踏まえて、「存在を宿す言葉」について具体例を用いて考える。リアルタイム・オンラインで行う。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The basic structure of both ways of thinking — thinking from the outside and thinking from the inside — is explained in this class, and the contents of "grasp from the outside and grasp from the inside" are explained specifically and systematically. The purpose is to get basic understanding of two ways of thinking.
5. 学習の到達目標：広い意味での哲学的思考における最も基本的な二つのものの見方をもとにして、言葉と身体の根源的な関係を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To get the basic understandings of two ways of grasping things
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回 ものを外側から知ることと内側から知ること — 世界について語ることと世界の中から語ること①
 - 第2回 ものを外側から知ることと内側から知ること — 世界について語ることと世界の中から語ること②
 - 第3回 ものを外側から知ることと内側から知ること — 誠実と向上心
 - 第4回 存在と所有 — 問題と神秘①
 - 第5回 存在と所有 — 問題と神秘②
 - 第6回 思考の枠組み — 障害と機関①
 - 第7回 思考の枠組み — 障害と機関②
 - 第8回 個と場 — 己の存在基盤①
 - 第9回 個と場 — 己の存在基盤②
 - 第10回 時間・空間のサイズ — 言葉のサイズ
 - 第11回 時間・空間のサイズ — 思考のサイズ
 - 第12回 言葉ともの — 存在を宿す言葉①
 - 第13回 言葉ともの — 存在を宿す言葉②
 - 第14回 自覚について
 - 第15回 まとめ
8. 成績評価方法：

出席3割、レポート7割
9. 教科書および参考書：

テキストは授業時に指示する。参考書として以下の図書を用いる。
戸島貴代志著『ほんとうのことば』、東北大学出版会、2021年
10. 授業時間外学習：講義内容の復讐を中心に学習する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

オフィスアワーは昼休み

科目名：倫理学特論Ⅲ／ Ethics (Advanced Lecture III)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：1 学期集中 単位数：2

担当教員：飯塚 理恵

コード：LM98809, 科目ナンバリング：LIH-PHI605J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：応用認識論

2. Course Title (授業題目) : Applied Epistemology

3. 授業の目的と概要：現代分析認識論は「知識とは何か」という問いを中心的に研究されてきましたが、近年、知識を対象にしつつも、知識の定義とは別の角度から様々な哲学的探究が行われ、発展しています。そして、それらの発展のうちいくつかは、社会的な行為者の認識に注目し、認識の倫理を問うという共通点を持っています。本授業では、そうした社会的な行為者の知識を巡る新たな倫理的諸問題を紹介し、理解してもらうことを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course provides an overview of modern applied social epistemology. The course covers topics such as virtue epistemology, epistemic injustice, feminist standpoint epistemology, radical moral encroachment debate, and problems of conspiracy theory. At the end of this course, students are expected to understand issues associated with ethics of knowing, and socially situated knowledge.

5. 学習の到達目標：この演習では、まず文献を読み議論を理解すること、そして、そうした議論にもとづいて学生同士で議論したりレポートで発表したりすること、そして、日常生活を送る際にも授業内で学んだことを活かせるようになることを目指しています。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students should develop the ability to engage in critical and respectful discussions with fellow students, the ability to write an argumentative paper on key topics engaged in the course.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 知識とは何か：メノン・ゲティア問題
2. 知識とは何か：信頼性主義・証拠主義
3. 知識と理解：認識的価値
4. 知識と徳：徳認識論
5. 知識と徳：徳認識論
6. 認識的不正義：証言的不正義
7. 認識的不正義：解釈的不正義
8. 認識的不正義：批判と発展
9. スタンドポイント認識論
10. スタンドポイント認識論
11. 証拠と友情
12. 差別的な信念
13. 陰謀論的思考
14. 陰謀論的思考
15. まとめ

以上の内容を予定しています。目的の範囲内で、具体的な話題は多少変わる可能性があります。授業内では、ディスカッションの時間を設けて、積極的に学生の議論への参加を促します。コメントペーパーの提出も検討します。

8. 成績評価方法：

レポート 60%

コメントペーパーなど授業内の課題及び出席 40%

9. 教科書および参考書：

参考までに、授業の中で紹介する予定の文献（一部）は以下のようなものを予定しています。資料は適宜配布します。

Cassam, Q. (2016). Vice epistemology. *Monist*, 99(2), 159-180.

Dotson, K. (2011). Tracking epistemic violence, tracking practices of silencing. *Hypatia*, 26(2), 236-257.

Fricker, M. (2007). *Epistemic Injustice: Power and the Ethics of Knowing*. Oxford University Press.

Stroud, S. (2006). Epistemic Partiality in Friendship. *Ethics*, 116(3), 498-524.

Wylie, A. (2003). Why Standpoint Matters. In S. Harding & R. Figueroa (Eds.), *Science and Other Cultures: Issues in Philosophies of Science and Technology* (pp. 26-48). Routledge.

Zagzebski, L. (1996). *Virtues of the Mind: An Inquiry into the Nature of Virtue and the Ethical Foundations of Knowledge*. Cambridge University Press.

10. 授業時間外学習：配布資料がある場合、授業前に読みましょう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：倫理学総合演習 I / Ethics (Integration Seminar I)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：戸島 貴代志、村山 達也

コード：LM11505, 科目ナンバリング：LIH-PHI608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：発表と討論

2. Course Title (授業題目) : Presentation and Discussion

3. 授業の目的と概要：参加者は、自分の研究テーマに基づいた発表を行い（レジュメ配布）、それについてあらかじめ決めておいたコメンテーターによる質問や、他の参加者からの質問に答える。真善美にかかわる諸問題について深く考える訓練をする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course offers an opportunity to experience philosophical way of thinking to help students think about issues associated with the true, the good and the beautiful.

5. 学習の到達目標：発表と討論を通して、相手に自分の考えを理解してもらう力と、相手の考えを理解する力とを、同時に養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students think about philosophical problems for themselves.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面あるいはオンラインで進め、classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. 発表と討論 1
2. 発表と討論 2
3. 発表と討論 3
4. 発表と討論 4
5. 発表と討論 5
6. 発表と討論 6
7. 発表と討論 7
8. 発表と討論 8
9. 発表と討論 9
10. 発表と討論 10
11. 発表と討論 11
12. 発表と討論 12
13. 発表と討論 13
14. 発表と討論 14
15. 発表と討論 15

8. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

9. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：発表者の予稿を精読し、質問に備える。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学総合演習Ⅱ／ Ethics (Integration Seminar II)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：戸島 貴代志、村山 達也

コード：LM21505, 科目ナンバリング：LIH-PHI609J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：発表と討論

2. Course Title (授業題目) : Presentation and Discussion

3. 授業の目的と概要：参加者は、自分の研究テーマに基づいた発表を行い（レジメ配布）、それについてあらかじめ決めておいたコメンテーターによる質問や、他の参加者からの質問に答える。真善美にかかわる諸問題について深く考える訓練をする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course offers an opportunity to experience philosophical way of thinking to help students think about issues associated with the true, the good and the beautiful.

5. 学習の到達目標：発表と討論を通して、相手に自分の考えを理解してもらう力と、相手の考えを理解する力とを、同時に養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students think about philosophical problems for themselves.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面あるいは対面およびリアルタイム型オンラインで進め、classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。この科目のクラスコードはです。classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 発表と討論 1
2. 発表と討論 2
3. 発表と討論 3
4. 発表と討論 4
5. 発表と討論 5
6. 発表と討論 6
7. 発表と討論 7
8. 発表と討論 8
9. 発表と討論 9
10. 発表と討論 10
11. 発表と討論 11
12. 発表と討論 12
13. 発表と討論 13
14. 発表と討論 14
15. 発表と討論 15

8. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

9. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：発表者の予稿を精読し、質問に備える。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学研究演習 I / Ethics (Advanced Seminar I)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：戸島 貴代志

コード：LM13409, 科目ナンバリング：LIH-PHI624J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現象学と存在論

2. Course Title (授業題目)：Phenomenology and Ontology

3. 授業の目的と概要：1) ハイデガーの『存在と時間』の「序論」を精読する。ハイデガーの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。

2) 現象学と存在論のかかわりをハイデガーの存在概念とその探求方法とを通して解明する。

3) ドイツ語を第 2 外国語としていない学生については関連する日本語のテキストの読解。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides an overview of philosophy of M. Heidegger to help students learn about issues associated with some problems of Being itself.

5. 学習の到達目標：ハイデガーの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係を把握する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to understand the relation of phenomenology and ontology.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

この科目では classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。授業はオンラインで進める。

1. 「現象学」と「存在論」 1
2. 「現象学」と「存在論」 2
3. 「現象学」と「存在論」 3
4. 「現象学」と「存在論」 4
5. 「現象学」と「存在論」 5
6. 「現象学」と「存在論」 6
7. 「現象学」と「存在論」 7
8. 「現象学」と「存在論」 8
9. 「現象学」と「存在論」 9
10. 「現象学」と「存在論」 10
11. 「現象学」と「存在論」 11
12. 「現象学」と「存在論」 12
13. 「現象学」と「存在論」 13
14. 「現象学」と「存在論」 14
15. 「現象学」と「存在論」 15

8. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

9. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

サブテキストとして、戸島貴代志『ほんとうのことば』東北大学出版会、2021

1 0. 授業時間外学習：テキストを読み、授業に備える。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学研究演習Ⅱ／ Ethics (Advanced Seminar II)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

semester：2 学期 単位数：2

担当教員：戸島 貴代志

コード：LM23407, 科目ナンバリング：LIH-PHI625J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現象学と存在論

2. Course Title (授業題目)：Phenomenology and Ontology

3. 授業の目的と概要：1) ハイデガーの『存在と時間』の「序論」を精読する。ハイデガーの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。

2) 現象学と存在論のかかわりをハイデガーの存在概念とその探求方法とを通して解明する。

3) ドイツ語を第 2 外国語としていない学生については関連する日本語のテキストの読解。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of philosophy of M. Heidegger to help students learn about issues associated with some problems of Being itself.

5. 学習の到達目標：ハイデガーの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to understand the relation of phenomenology and ontology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。授業は対面あるいはリアルタイム・オンラインで進める。

1. 「現象学」と「存在論」 1
2. 「現象学」と「存在論」 2
3. 「現象学」と「存在論」 3
4. 「現象学」と「存在論」 4
5. 「現象学」と「存在論」 5
6. 「現象学」と「存在論」 6
7. 「現象学」と「存在論」 7
8. 「現象学」と「存在論」 8
9. 「現象学」と「存在論」 9
10. 「現象学」と「存在論」 10
11. 「現象学」と「存在論」 11
12. 「現象学」と「存在論」 12
13. 「現象学」と「存在論」 13
14. 「現象学」と「存在論」 14
15. 「現象学」と「存在論」 15

8. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

9. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

サブテキストとして、戸島貴代志『ほんとうのことば』東北大学出版会、2021

10. 授業時間外学習：テキストを読み、授業に備える。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理学研究演習Ⅲ／ Ethics (Advanced Seminar III)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LM13209, 科目ナンバリング：LIH-PHI626J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：幸福とは何か（倫理学原典講読・フランス語）

2. Course Title (授業題目)：Well-Being: Reading Texts of Ethics in French

3. 授業の目的と概要： モニク・カント＝スペルベルのエッセイ「幸福」を読みます。

カント＝スペルベルはフランスを代表する古典学者、倫理学者の一人です（「その他」の欄に紹介ページのアドレスを載せました）。彼女が総責任者として編んだ『倫理学・道徳哲学辞典』の中に、彼女自身が執筆した「幸福(Bonheur)」という項目があり、ここで読むのはそれです。現代の英語圏でも人気の主題ですが、彼女は古代ギリシアやデカルト、カント、そして現代の論者までを視野に収めつつこの主題にアプローチします。現代主流のアプローチを相対化する意味でも興味深い論じ方です。この演習では、フランス語や倫理学史の知識も適宜補いながら、フランス語を日本語に直し、議論していきます。

各回とも訳文作成のためのヒントを事前に配布しますし、文法事項を丁寧に確認しながら進めますので、文法に不安がある場合でも受講できます。フランス語が初めてでも大丈夫ですが、初級文法を並行して自習していただく必要があります。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course we read Monique Canto-Sperber's essay 'Bonheur', an article of Dictionnaire d'éthique et de philosophie morale edited by Canto-Sperber herself. The key themes covered are: well-being, happiness, and morality.

5. 学習の到達目標：フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。

幸福という主題が倫理学においてもつ重要性を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course aims to improve students' abilities to read philosophical texts in French and to translate them to Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

第一回：導入（扱う主題とテキスト、著者の簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

8. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断します。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてプリントで配布します。

フランス語学習については初級～中級までの参考書を授業内で紹介します。

10. 授業時間外学習：各回とも訳を用意しておいてください（フランス語初級者の場合は一部でも大丈夫です）。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

モニク・カント＝スペルベルの紹介文

英語：https://en.wikipedia.org/wiki/Monique_Canto-Sperber

フランス語：<https://web.archive.org/web/20110722152832/http://canto-sperber.fr/>

科目名：倫理学研究演習V／Ethics (Advanced Seminar V)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LM15207, 科目ナンバリング：LIH-PHI627J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：倫理学の議論：再構成と質問とのやり方を学ぶ
2. Course Title (授業題目)：Arguments and Questions in Arguments of Ethics
3. 授業の目的と概要：この演習では、倫理学のテキストを読み、主張を支える議論があれば再構成し、その上で、どのように質問したり反論したりすればよいのかを学びます。
以上の目的ゆえ、テキストは短く、分かりやすいもの（私による内容解説がなるべく不要なもの）、しかしなるべく新しい知識が得られるものを選びます。最初の数回で議論の再構成の仕方や質問の出し方について講義します。それ以降は、各回とも、指定されたテキストについて議論の再構成や質問を事前に提出していただき、演習ではそれをもとに議論します。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course students will learn how to reconstruct arguments and pose questions on texts of ethics. After some introductory lectures, students are to submit reconstructions of argument and questions on assigned texts in advance. The classes will be devoted to general discussion on these short reports.
5. 学習の到達目標：(1) 倫理学的問題について書かれたテキストを正確に読解できるようになる。
(2) 倫理学的問題について書かれたテキストに含まれる議論を再構成できるようになる。
(3) 倫理学的問題について書かれたテキストを読み、質問できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：This class aims to improve students' ability to read academic papers, reconstruct arguments, and pose relevant questions.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：導入
第二回：入門講義（1）：議論（アーギュメント）の再構成のやり方
第三回：入門講義（2）：質問の出し方
第四回：倫理学のテキストの読解（1）
第五回：倫理学のテキストの読解（2）（以下同様）
8. 成績評価方法：
演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。
9. 教科書および参考書：
最低限必要なものはすべてプリントで配布します。なお、テキストとして予定しているのは：
・バジューニ、フォスル『倫理学の工具箱』
です。また、議論の再構成については以下を参照してください。
・野矢茂樹『新版 論理トレーニング』
・ノルト、ロハティン『現代論理学〈1〉（マグロウヒル大学演習）』
10. 授業時間外学習：対象となるテキストを事前によく読み、不明点、疑問点、反論などを考えておくこと（最初は上手くできなくても構わない。不明点や反論などを提示できるようになることも、この演習の目的の一つである）。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
【重要】前年度までに私の「倫理学の基礎」を履修済みである（単位は取得できていなくても構わない）ことが望ましいですが、必須の条件ではありません。ただし、履修していない場合は、倫理学の入門書一冊ぶん程度、こちらが指定する内容について自習していただくことになります。初回に相談してください。

科目名：倫理学研究演習Ⅳ／ Ethics (Advanced Seminar IV)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

semester：2学期 単位数：2

担当教員：澤田 哲生

コード：LM23206, 科目ナンバリング：LIH-PHI628J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：知覚と想像力（倫理学原典講読・フランス語）

2. Course Title (授業題目)：Perception and Imagination: Reading Texts of Ethics in French

3. 授業の目的と概要： ミケル・デュフレンヌ (Mikel Dufrenne, 1910-1995) の主著『美感的経験の現象学 (Phénoménologie de l'expérience esthétique)』を読みます。

デュフレンヌは、戦後のフランス現象学運動に美学的な観点と概念を導入した人物です。この演習では、『美感的現象学』の第2巻『美感的知覚』を読み進めます。テーマとなるのは、人間の「知覚」と「想像力」、さらには両者の関係です。

演習では、教師の側で倫理学および美学の知識も適宜補いながら、学生にフランス語を日本語に訳してもらいます。その後、全員で議論を行います。フランス語の文法事項を丁寧に確認しながら進めますので、文法に不安がある場合でも受講できます。フランス語が初めてでも大丈夫ですが、初級文法を並行して自習していただく必要があります。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course we read Mikel Dufrenne's book, Phenomenology of esthetic experience. The key themes are "perception" and "imagination" in human life.

5. 学習の到達目標： フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。知覚と想像力という人間的営為が倫理学においてもつ重要性を学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course aims to improve students' abilities to read philosophical texts in French and to translate them to Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

第一回：導入（扱う主題とテキスト、著者の簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

8. 成績評価方法：

出席、担当、意欲的な参加から総合的に判断します。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてプリントで配布します。フランス語の日本語訳について、簡単な訳し方から高度な訳し方まで適宜説明します。

10. 授業時間外学習： 各回とも訳を用意しておいてください（フランス語初級者の場合は一部でも大丈夫です）。どうしてもわからない部分は先に読み進めた後に、あらためて検討してください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

ミケル・デュフレンヌの情報です。https://fr.wikipedia.org/wiki/Mikel_Dufrenne